

## 藤岡謙二郎先生のご逝去を悼む

藤岡謙二郎先生は、昭和60年4月14日正午、ご入院先の京都市左京区岡崎の上野内科病院で、脳梗塞のためご他界された。かねて入院されていたことは存じていたが、余りにも突然のことで、ただ愕然とするほかはなかった。享年70歳。奇しくも翌15日が71歳のお誕生日であっただけに、まことに哀惜の念を禁じ得ない。

すでに『地理学評論』、『人文地理』、『古代文化』など多くの学会誌において、先生のご経歴やわが国地理学界に投じられた業績の数々をたたえるなど、在りし日の先生をお偲び申し上げる紙碑をかかげているので、失礼を顧みず、以下は先生をお慕いするよすがとして筆を執らせていただいた。

先生はその風采や野人的な性格、少しも気取られないご性格などからいって、稀にみる大学教授らしくない大学教授といえるであろう。学生や周囲の者が、親しみの持てる先生とお慕い申し上げるのも、そんなユニークなご性格の故であるし、また誰もが真似の出来ない先生のご人徳のせいだと感じている。学問をこよなく愛された先生は、また病状悪化にもかかわらず、お亡くなりになる4日前の4月10日、非常勤で出講されている京都外国語大学で、午前中の講義を済まされたことを後日耳にした。さぞお辛かったであろうと察する。40有余年の長きにわたって、教壇に立たれていただけに、その間先生の教えを受けた者も数多い。いまでは教師・医師・会社員・銀行員と各方面で活躍している。実に多彩な教え子を持たれた先生は、教師として幸せな方だと思う。中でも先生の意思を受け継ぎ、歴史地理学徒として大学の教壇に立つ者は何十人といることを考えれば、これほどまでに多くの後進を育てられた先生は、今更ながら偉大なる教育者であったと感服し、またその点でも歴史地理学界に大きな功績を残されたといえよう。

先生の幅広い学識は研究領域にもあらわれている。とくに歴史地理学研究に景観変遷史的手法を取り入れられ、独特な学風を確立されるとともに、考古地理学を提唱された。それらの研究成果に基づいて著作にも専念された。終戦間もない昭和21年12月に大八州出版(京都)より刊行された『地理と古代文化』は先生の処女作で、それを皮切りにご他界までの間



に100冊を越える単著・編著を世に出されるといった超人ぶりであった。

先生は学界でも重鎮のお一人であった。わが歴史地理学会でも先生は昭和35年度以降、評議員として学会発展のためお尽しいたごき、さらに昭和49年度より2カ年間にわたって、会長として直接学会運営にあたられたが、そのころの本学会は、まだまだ基礎づくりの段階にあつたため、先生も会財政にゆとりをもたせるため、会員増加にご自身も乗り出されるなどご苦勞が多かつた。会合の折にも色々ご助言をいただいた。それほど本学会の発展に意を注いでおられた先生は、昭和53年11月発行の「歴史地理学会々報」(現 歴史地理学)100号記念特集号に、元会長として喜んで寄稿に応じて下さつた。

以上記したように多年にわたる研究・教育の功勞により、先生は昭和60年4月14日付で、正四位勲三等に叙せられ、旭日中綬章を受けられた。本学会も歴史地理学界に寄せられたご功績におむくいするため、昭和60年4月1日付で、名誉会員としてご推戴申し上げた。ここに会員一同とともに先生のご冥福をお祈り申し上げる次第である。

(山崎謹哉)